**答　　辞**

　本日は、令和六年度琉球大学大学院修了式にあたり、博士前期課程、専門職学位課程、そして博士後期課程修了生を代表し、ご挨拶を申し上げます。

　西田睦学長をはじめ、諸先生方ならびにご来賓の皆様のご臨席を賜り、盛大な修了式を挙行してくださいましたことに、修了生を代表して心より御礼申し上げます。

　博士前期課程から後期課程での五年間の大学院生活を振り返ると、その半分近くは新型コロナウイルス感染症と向き合いながらの研究活動であったように思います。

　令和二年度から三年度にかけての博士前期課程在籍時には、インドネシア共和国・ロンボク島において調査を計画していましたが、感染症拡大の影響を受け海外渡航が叶いませんでした。そのような状況の中で、インドネシア共和国・マタラム大学医学部の研究協力者の諸先生方よりご指導を賜り、オンラインでインタビュー調査を遂行することができました。

　令和四年度から六年度にかけての博士後期課程在籍時には、新型コロナウイルス感染症対策から着想を得て、島嶼地域における学校保健関連政策が感染症対策に及ぼす影響を明らかにするために、太平洋島嶼国ミクロネシア地域において多国間比較ケーススタディに取り組みました。ミクロネシア連邦、マーシャル諸島共和国、パラオ共和国の三か国を対象とした現地調査では、各国の短期大学看護プログラムの諸先生方より温かいご支援を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

　また、これらの経験は、現地でのデータ収集のみならず、看護教育者との交流を通じて、看護教育の重要性を再認識する貴重な機会となりました。現地の看護教育を支える教員や看護学生との関わりを通じて、自身も将来的には日本国内で看護教育者として教育・研究活動に従事したいという思いが強まり、博士後期課程修了後の進路を検討する上での強い動機となりました。

　保健学研究科国際地域保健学教室では、アジア地域の低中所得国において国際保健に関する研究活動に取り組ませていただき、五年間の大学院生活を支えていただきましたことに、心より感謝申し上げます。また、海外のみならず、沖縄の公衆衛生や思春期保健について学ぶ機会を得ることができました。国際地域保健学教室での研究活動を通じて、国内外の保健医療事情について学ばせていただいたことは、大変貴重な経験となりました。加えて、沖縄は東南アジア諸国へ地理的に近いという特徴もあり、また亜熱帯地域であることから、特に国際保健や熱帯医学を学ぶには最適の環境であると感じました。

　海外での研究活動を通じて、指導教員である小林潤教授よりご指導を賜り、海外の研究協力者の諸先生方と国際共同研究に取り組む上で、大きな影響を受けました。研究者としてのあり方や国際共同研究を遂行するために、いつも貴重なご助言を賜りましたことに、深く感謝申し上げます。

　無事に今日の日を迎えることができたのは、これまで述べてきた方々をはじめ、大学院生活の中で出会うことができた方々のおかげであると感じております。琉球大学での研究活動を通じて学んできたことを、これから迎える新しい社会環境の中で存分に活かし、社会に貢献できる人材となれるよう精進して参ります。

　結びに、琉球大学のさらなる発展と、本日ご臨席を賜りました皆様、またこれまで私たちを支えてくださった皆様のご健康とご活躍を祈念申し上げ、答辞とさせていただきます。

令和七年三月二十五日

修了生代表

保健学研究科　渋谷文子